

■リサーチフェイズ追加イベント

この追加シーンは、巻末プレイガイドにあるアドリブの一例を、シナリオの書式に落とし込んだものである。

このシーンを導入する目的は、キャストへの攻撃を積極的に行うことで、リサーチフェイズに更なる緊張感と変化を与えることだ。

ただし敵ゲスト側の神業が使用されるため、ゲストデータの神業の項目を、状況に合わせて修正する必要がある。RLの負担は増えるため、導入の際にはよく吟味すること。

◆追加イベント

□裏切り者、発覚? (優先度:高)

追加条件:《完全偽装》が必要数以上ある

発生条件:⑧クロスを殺した襲撃者の情報を得た

□忍び寄る刃 (優先度:高)

追加条件:プレイヤー5人いる

発生条件:⑩サムライマストダイ計画を調べられるようになった

※イベント優先順位に関しては本書P.9を参照。

●クグツ2:裏切り者、発覚?

条件:⑧クロスを殺した襲撃者の情報を得た

登場:キャスト全員登場

◆解説

《完全偽装》が必要数以上ある場合に発生する追加イベント。マリオネーターが偽装情報を流布し、『クグツ2』をクロス殺害犯に仕立てあげる。

マリオネーターは《電脳神》を使用し、『クグツ2』に社会戦ダメージ20番、ID剥奪を与える。このダメージが治療されていない場合、『クグツ2』はクライマックスフェイズに登場できない。

◆描写1

後方処理課のオフィスにひとつの情報がもたらされた。破壊されたクロスの電腦から、殺害者の映像データがサルベージされたという。

◆描写2 (復元された映像)

血塗れのナイフを手に、死にゆくクロスを見下ろす人物。その顔は——『クグツ2』だった! (ゲストが《電脳神》を宣言)

◆結末

物的証拠が出てしまえば、言い逃れはできない。以降『クグツ2』は干早の警備部に追われることになる。

この結果、拡大解釈だが『クグツ2』はクライマックスフェイズに登場することができなくなる。リサーチフェイズ中の行動には特に制限はない。

以上を伝えたくて、シーンを終了する。

●クグツ5:忍び寄る刃

条件:⑩サムライマストダイ計画の情報を得た

登場:キャスト全員登場

◆解説

プレイヤーが5人以上の場合に発生する追加イベント。真実を知ったキャストたちを、ドール5が襲撃する。

ドール5はキャストひとりを《不可知》で一度だけ攻撃し、更にもう一度《不可知》を使用し退場する。

◆描写

重要な情報を手に入れたキャストたち。だが喜ぶにはまだ早い。

いつの間にかキャストの背後に、ナイフを構えた襲撃者が立っていたのだ。

▼ドール

「……(ナイフで攻撃する)」《不可知》を宣言

「……(ダストシュートへ飛んで姿を消す)」《不可知》を宣言

◆結末

キャストたちが襲撃に対する反応を返すとシーン終了。

●裏切り者、発覚?:偽装映像について

この映像はマリオネーターにより偽装された映像である。⑧クロスを殺した襲撃者の情報を入手したキャストは、『クグツ2』が犯人ではないと分かるだろう。

だが『クグツ2』に与えられた社会戦ダメージは神業によるものである。

そのためリサーチ項目の情報を論拠に『クグツ2』の無罪を主張しようとも、もちろん社会戦ダメージが回復することはない。

明確な物証があるため、班長である『クグツ1』であろうとも神業なしには警備部を説得できないのだ。

●忍び寄る刃:襲撃者について

この襲撃に関しては《完全偽装》が使用されていない。そのためキャストたちはこの襲撃者の情報を収集できるようになる。

キャストたちは⑩ドールを調べられるようになる。また⑩ドールの全情報を得た場合、襲撃者がドール5であることが分かる。

この襲撃は、三班の動きが予想を上回るものだったために、急遽実行されたものである。そのため事前準備が十分でなく、他のドールたちの襲撃より精度が落ちているのだ。